

# 会 議 録

会議名	第2回山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会
開催日時	令和5年11月2日(木) 午前10時～正午
開催場所	山形市役所11階 入札室
構 成 員	ウィリアムソン師円(オリンピック)★ 小野 俊(山形中央高等学校スケート部顧問)★ 片山 健一(山形市スケート協会会長) 笹瀬 雅史(山形大学教授) 逸見 良昭(山形市スポーツ協会会長) 大江 夕(山形県教育委員会企画専門員)／オブザーバー 金子 智洋((株)パティネレジャー)／アドバイザー 斎藤 克博((株)パティネレジャー)／アドバイザー ★印の構成員についてはオンライン参加
傍聴者の数	3人
資料の名称	・山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会報告書(素案)
事 務 局	畑口企画調整部長、花輪文化スポーツ推進監、早坂スポーツ課長、富樫スポーツ施設整備推進室長、遠藤国スポ運営総括主幹兼課長補佐、多田主任、齋藤スポーツ施設管理係長、佐野主任

## 【会議経過】

### 1 開 会 事務局

### 2 意見交換

#### 事務局から説明

- (1) 山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会報告書(素案)について
- (2) その他

#### 構成員の意見聴取

- (1) 山形市における屋外スケート場の必要性
- (2) 大規模改修もしくは新規整備についての考え方
- (3) 整備にあたり望まれる機能
  - ① スピードスケート
  - ② 付加すべき機能の検討
    - ・アーバンスポーツ
    - ・市民の健康維持機能
    - ・スピードスケート以外のスケート機能
    - ・機能を付加する場合の留意点

座長 資料7ページから8ページ(3)①のスピードスケートまでは、前回頂いたご意見等を整理してまとめておりますので、まずここまでのところで皆様からご意見をいただきたい。

その後改めて(3)の②付加すべき機能の検討というところ、ここからは今日皆様からのご意見をひとつずつ順番に頂いていくという形で進めたい。

構成員 発言に大きな変化はなく、前回の結果を踏まえた内容にはなると思う。

全国のスケートリンクを見たとき、例を挙げると八戸市のスケートリンクが2019年にオープンしてから、全国的に見て小学生の競技人口が大きく伸びているように感じる。競技全体として、少子化に伴って競技人口が減少しているということもあると思うが、それに反していた。長野や北海道の人口が少しずつ減っている中で、八戸の小学生や中学生が活気づいているのを、大会や合宿をしているときに強く印象づいた。

そのため、(1)の②にある競技人口の増加と普及という点において、室内リンクができれば、スケートをやろうというきっかけが増えると思う。競技者としてではなく一般開放者として楽しむと同時に、競技にしっかり携われるような施設があることは、競技人口の増加と普及に大きく関わってくると思っている。

スケートリンクを作った年や、その次の年にオリンピック招致、というようなすぐに効果が出るようなものではないのかもしれないが、長い目で見たときに将来のオリンピックなどへの先行投資という競技者の目線もあるし、山形のスポーツを活性化させるため、競技者を増やすためというところで、改修を考えていただけたらと感じている。

大規模改修と新規整備というところでも、例えばワールドカップ等の大きい大会を開催したいとなると、国際ルール等も厳しいため、かなり大規模な施設となると思う。ただ、競技人口を増やすとか、スケートに携わる人数を増やす、気軽にスケートに打ち込める、取り組める施設にするには、最低限400mのトラックを有し、現在のオープン日である11月23日、11月の中旬から上旬の設定をもう少し早めるだけでも価値がある。

夏には帯広と八戸、10月には長野のエムウェーブがオープンする。11月後半を待たずしてスケートに取り組める施設を出すためには、新規の施設でも最低限の室内リンクで大丈夫ではないかと思っている。

帯広のリンクも大規模なリンクとは言えず、観客席もほとんどないが、ワールドカップを開催できる規模ではあると思う。エムウェーブやYSアリーナのように何百人も入れるような観客席ものでなくても、屋内レベルの大会が開催できるようなレベルのリンクであれば、現施設の延長として十分ではないかと感じている。

他の国の状況をお伝えできればと思う。ベラルーシのミンスクにあるリンクでは、一面にカーリングとショートトラックと400mのリンクを全部混ぜ込んだものがある。詳細については次の議題の話題になると思うので、後ほどお話しさせていただく。

構成員 中央高校スケート部は10月に八戸で約一か月間合宿を行った。施設の方とお話しする機会があり、今月11月から学校体育での施設利用が入ってい

ると伺った。学校体育の時間帯は午前中いっぱい設定されており、八戸市の小学校、中学校がスケートを授業の一環として取り入れているという形であった。

(1)②のこどもたちがスケートに触れる機会ということであるが、こういった学校体育を通してスピードスケートに携わる機会があることによって、少しでもスケートに興味を持ってくれる方々が増えていき、冬期間の運動不足解消にもつながるのではないかと考えている。

続いて(1)③のアスリートの育成というところでは、山形県スケート連盟スピード強化部長として、競技力の向上について毎年検討を重ねながら、どんな取り組みができるかを考えている。加藤条治を始め山形出身の選手と、中央高校出身の森重等メダリストを輩出していることであるとか、活躍されていたウイリアムソン師円さんなど、世界で活躍できるような目標をもって競技に取り組む選手というのを育成していきたいと強く感じている。

ただそうなってくると、こどもたちの人数が少なくなっていく中で、少しでもスケートを始めてくれる、続けてくれるという選手を、いわゆる普及の面で何か取り組みをしていかなければならないと感じている。

先ほどのお話にもあったが、八戸市のスピードスケートの競技人口は目に見えて増えている。おそらく4年後8年後、こどもたちが中学校高校に上がったころには、非常に盛り上がりが出てきていると感じる。東北では青森県のスケート人口が一番多く、東北大会では何十年も青森県の生徒たちが活躍し、県体制の連覇を続けている。

青森県の競技人口が一番多くなっているが、東北全体でスピードスケートのレベルを上げていこうという話も上がっている。各県だけで強化を行っていても、頭打ちになってきている。少ない競技人口の中でも工夫ができるのではないかと、高校においては合同合宿をするなど練習する機会を検討しているところである。

(2)の大規模改修もしくは新規整備についての考え方については、選手にとっては大規模改修より新規整備の方が理想的であると考えている。ただしこれについては、検討委員会を経て県と山形市や様々なところで話し合いが必要になってくると思う。

新規整備の視点から考えていくと、雪が降っている中や気温が低い中で体を動かすというのはなかなか踏み出せない部分があるが、安定した気候の中でスポーツが行えるというのは一つの踏み出しのきっかけになると思う。そういった所から、今回の話し合いの中で出てくる様々な取り組みがプラスに働いていくためにも、山形市や県スケート連盟が協力し合って進めていきたいなと感じている。

大規模改修の視点から考えていくと、故障や老朽化した部分を整備しながら現在まで開場し続けてもらっている状況である。何度も改修をしてもらい、大会の開催ができるよう準備をしてきているところではあるが、肝心の冷凍機が心配である。数年前の冷凍機の故障によりオープンが延期された際には、選手はもちろん市民の方においても、楽しみにしていたのに滑ることができず「次はもう行かなくていいか」となってしまった方ももしかするといたの

ではないかと感じているところである。

かなり高額な機械であることは承知しているが、大規模改修を行うのであれば直近の故障の修繕に留まるのではなく、今後何十年も先を見ての改修が必要になると考えている。

(3)の整備にあたり望まれる機能については、今の形状がスピードスケートの400mトラックであるため、フィギュアスケートやアイスホッケーがあると考えられる。この施設がなくなってしまうと、中央高校はホームの練習施設がなくなってしまうため、(400m)リンクは間違いなく存続して欲しい。

この中で限られたできることをいろんなところで検討していかなければならないというところで、山形県スケート連盟の体制も整理をし、スケートの普及であるとかスケート連盟としてできる企画はないかと進めていき、山形市と一緒に取り組める部分であるとか、そういったものを検討していきたいと考えているところである。

構成員

お二人の話された内容と似るところがあるかもしれないが、作るのであれば屋内のちゃんとした施設、八戸や長野のリンクとまではいなくても、コンパクトで屋内でやれるものを作って頂きたい。そんなに派手である必要はない。そうすれば子どもたちが雨でも雪でもスケートをできると思う。今の屋外リンクでは雨雪でできなくなってしまう。

屋内のリンクになれば、おそらく営業時間も長くなるのではと思う。現在のオープンが11月23日であるが、もっとその前にできそうな気がする。開場期間の前も後ろも長くなることで、氷に親しむ機会も長くなると感じる。

それにより、子どもたちの数も増えてくると思うので、最低限として屋内化を行ってほしい。

やれる場所が増え、400mリンクができ、営業時間が長くなることで、スピードスケートの人口も増えてくると感じる。場所がなければそういった人口は増えてこないと思う。

中央高校の生徒や海外の選手に至るまで氷を求めているんな所へ行っていると思う。北海道や海外へ行っている練習をしているだろうが、移動時間もかかっている。もし新しい施設ができれば、中央高校の生徒やオリンピックで活躍するまでになる人が出るのではと感じる。

県外からも山形のリンクで滑りたい、といった需要も増えてくると思う。夏場は仙台や川越などに行ったりもした。オールシーズンに対応するかはわからないが、長く開場すれば市民の触れる期間も増え、相乗効果もあると考えていきたい。

一番はお金の問題になると思う。前回は話をしたが、市と県と、国やtotoからの助成等や、上山や天童、中山など近隣の市町村を巻き込めないか、企業等の民間も巻き込んでお金を捻出できないかを感じている。そういった前例を山形市で作ってもらいたい。行政だけでやるのではなく官民一体で、アスリート育成の観点からも市民が楽しんでオリンピック選手を輩出できる、最低限の機能を備えた施設を造ってほしい。

構成員

皆さんにはまず数字をご提示したい。最近の新聞で目にされたかもしれないが、本行われた鹿児島特別国体において山形県の順位は43位であった。

この時、冬季のスケートに係る点数は65点。スケートを除いた順位は、45位である。またスケートとスキーを除いた順位は、47位。冬の国体がないと、山形は最下位であるという結果であった。もちろんこれは、活躍ができなかった、期待していた競技で点数を取ることができなかったというのも大きい要因であったと思う。

ここ数年の傾向を確認すると、昨年度山形県は40位、スケートを除くと42位。さらに3年前は全体順位は32位だったが、スケートを除くと39位であった。スケートもしくはスキーなど、冬のスポーツの得点が全体の点数に影響している状態である。

特に顕著だったのは79回大会の福井大会で、全体順位は34位、スケートを除くと41位である。冬の国体があれば、ほとんどが40位付近という状況である。それだけ、冬の活躍が県全体に影響している。

ただし、この状況は昔からではない。べにばな国体（平成4年）の時にスケートの点数がこれだけ貢献していたかと言えば違う。本日出席されているウィリアムソン師円さん等が出てきて活躍するようになってからである。ある程度の時間がかかったうえで、指導者が活躍できる生徒たちを育ててきたのである。

決してリンクがあるから選手が出たわけではなく、指導者があって初めてその選手が活かされるものであるし、それは一朝一夕でできるものではない。そのため、先生（指導者）の力というものがこれから末広がるように大きくなることを期待している。

そのためには、環境というのも一つ大きな要因になると思う。環境に関して、特にスケートに関しては費用の面が大きい。ランニングコストも含めた費用を考えなくては、世界規模の施設、とまでいかない状況と思う。

そこで、(1)の必要性を十分に考える必要があると思う。山形市に400mのリンクを置くという目的を、明確にしてもらいたい。先ほど小野先生のお話の中で「東北が一つになって」という言葉があった。それは育成であったりする部分もあるかと思うが、東北の中にいくつかリンクがあるなかで、山形のリンクにはこういった特徴があるといった、他の県の人たちも山形のリンクに来たくなるような特徴を持ったあるいは明確な目的のあるリンクができてくれば良いと思う。

(2)の大規模改修と新規整備については、前の(1)の部分が明確に位置づけされれば、(1)の①～③の目的に沿ったリンクを作るためにおのずと変わってくると思う。目的を明確にしたうえで大規模改修か新規の整備をしていただきたい。

(3)の整備にあたり望まれる機能に関しては、目的に合致していくと思う。スピードスケートのオリンピックだけを作るためのものであるのか、こどもたちを含めた山形市民がこぞって来るものか、もしくは東北全部から「楽しみ」のために来るのか、そういった目的を明確にしたうえで新しいリンクなどを整備もしくは改修していただきたい。

座長

次に、私の方からも意見を述べたい。

(1)から、付け加えることはないが、生涯スポーツという視点でこれまで山

形市のスケート場が果たしてきた役割や、あるいは競技力の面でも、施設があつて安定的に環境を提供してきたという事実が非常に重要と思う。そういう点で、施設は必要であると考えている。

生涯スポーツという点で考えると、冬の運動場所・選択肢として、屋外でもできる可能性があるという点からも非常に良いものと思う。もちろん屋内であってもスケートの経験ができるが、屋外であればのびのびと運動する機会ができるというのが代えがたいところがある。雪のスポーツもあるが、氷のスポーツの経験は大事である。

特にこどもたちが小さいときから遊んだり、運動したりする環境があると、競技力の面でももちろん重要であることは、先ほどから皆さんが強調されていると思う。遊ぶといった経験だけでも、機会があれば訪れる場所になっていけば、長く楽しめる場所として貴重なところとなると思う。

アスリートについては、皆さん専門の方のおっしゃる通りと思う。

(2)の大規模改修もしくは新規整備についての考え方は、私の経験上で考えると、改修というものが大規模であるとよいと思うが、部分的な改修が繰り返されていくうちにだんだんと縮小していくのを、今までいくつかの施設を見てきて感じることもあった。その場所の工事を行うことで、日常的な制約を受けることもある。改修を重ねる長所はあると思うが、そのために長期的な展望を持ちづらいと思うことがある。また新しい機能を付加するという難しさもある。

その点において新規整備は非常に魅力的であり、こちらの方が良いと思う。高度経済成長期に作られてきた様々な施設が、耐用年数や機能の変化、ニーズへの対応という点で、今変更が求められている時期だと思う。この施設においても同じ点があるため、時間やお金など制約する問題はあると思うが、可能性については議論できる時間もあり非常に魅力的な案であるし、今後の社会の見通しや市がどのようなビジョンを作るかによって、この施設の位置づけも新しい価値を付け加えながらできるのかと思う。

(3)の①に関しては、既にある施設が機能を果たしてきたということで、資料にある内容に賛成である。

私の意見については以上である。

アドバイザーのパティネレジャー様よりご意見等ありましたらよろしくお願ひしたい。

構成員

(1)の①について、装備が簡単であるため、スケートに触れ合う機会というのは多くすることができる。手袋と帽子だけで施設に来てもらえれば、靴は貸出し、簡単にスケートに取り組んでもらえるため、冬期間の運動機会の提供という点では、簡単に施設を利用することができる。

②については、今現在も授業を多く取り入れてもらっている。蔵王スキー場との兼ね合いもあるが、スケート教室、授業として多く触れてもらうのもよい状況である。

③については既に結果も出ているためコメントはない。

(2)については、大規模修繕を行うより新規整備のほうが、長い目見て業者的に理想であることは間違いない。大規模修繕を行っても数年後にはまた

不具合が出るため、作るのであれば新規に整備して進めていくのが良い形であると思う。

構成員 我々はスケートリンクの施工管理を主に行っているので、400mのリンクもいくつか担当している。基本的に400mの民間のリンクは1つ2つなので、行政の方とお話をして大規模改修を行った経験もある。今の時代財政が厳しいのは当然のため、できる大規模改修をやるだけというパターンが多い。その期間や金額を決めて細かくご相談を受けて提案させていただくことを行っている。

八戸市や長野市の新規のリンクを作るというところにも関わらせていただいたが、大規模改修についても細かいニーズを受けて対応したいと思っているので、更新が決まればご相談を伺っていきたいと考えている。

座長 皆様から一通りご意見を頂いたが、付け加えたいこと等があればお願いしたい。

---

座長 この後の議題にも関係してくることではあるが、皆様から頂いたご意見の中で、逸見会長からあった「これを整備する目的」あるいは「山形市のスケート場の特徴をどこに位置付けるか」という点に興味がある。

まず目的を明確にすることが大事であるとの会長のご意見であるが、その点についてももう一巡皆様からご意見を頂ければと思う。

座長 事務局の方から質問があった。目的、特にこの施設に関しての市として取り組む目的あるいは皆様がここで強調しておきたい部分があればお願いしたい。

最初にウイリアムソン師円さんの方から、順番にお願いする。

構成員 少し考える時間をいただきたい。  
(順番を後に回す)

構成員 目的というところで行くと、アスリート目線と切り離してしまうが、(1)の①にあるスポーツを気軽に親しむ施設と、②のこどもたちがスケートに触れる機会の確保の2つが目的になると感じている。それに付随する形になるのが競技者目線ということになると思う。

競技者目線でいくと、どうしても需要が少ない、市民の方が利用する機会が少ないものとなり、何のための施設かと思ってしまう。北海道のようにスケートを文化として根付かせるのは難しいと思うが、山形市に施設ができるのであれば、市民の方がスケートに降れる機会が多い方がいいと感じる。

先ほど逸見会長からお話のあった国体の結果については、他の競技団体においても強化等の取り組みをしているとは思いますが、これが山形のスポーツのレベルであると示していると思う。スケートも同じ状況ではあり、やまがたのスポーツをどこまで高めていくのかといったところを考えていかなければならないと危機感を感じられた。

構成員 スケート場を作るということは、サブロクにしても400mにしても市民の皆様楽しんでいただいて、氷に触れ運動していただくことを大前提とするものであるが、400mのリンクを作ることを目標の前提にしているので、競技をメインとした使用の中で市民の方に楽しんでいただく、400mを作

ということはそのことであると思う。

競技の方が優先であり、空いた時間で市民から楽しんでもらう、オリンピックはこういった環境で練習しているということを体験し興味を持ってもらうことで競技人口を増やしていくことが大事と思う。

欠かせないのは競技の面が一番、一番は市民ではあるが、県として国体等もあるため、市や県が国体等に構わない、お金がかかるから不要であるといえどそういった施設もなくするというのが最も簡単で楽であると思うが、そういうわけにはいかない。そういうわけにはいかないからこそ、作るのであればちゃんとしたもの、中途半端なものではなくコンパクトで、全国的にも例になるもの、他市町村でも作りたがるような、普通であればこのぐらいのお金がかかる場所少し抑えてできた、といった工夫が欲しい。お金はいろんなところから引っ張り出してもらい、立派なものを作ってもらおうと、山形市のステータスが上がり「ここまでできるのだ」と示すことで中央高校など学校に選手が集まり良い結果が出るのではないかとと思う。

市民のためであるが、400mは競技の目線が入る、両輪で考えていただきたい。

構成員

前回の会の中でも例でお話したものであるが、50年前私が高校生の時に授業の中でスケートを行った。その際のリンクはサブリンクであった。

その時、たくさんのスケート人口がいたがスピードスケートの人口はいなかった。なぜかという、サブリンクのリンクであったからである。

これが400mリンクであったなら、もしかしたら今山形がスピードスケートの大国になっていたかもしれない可能性がある。よって、競技人口を増やすには、400mの正規のリンクが必要であると考え。

しかしながら、特徴をもった、ということについては、決して立派なものだけではないと思う。一人でも多くの方が来たくようなリンクを望んでいる。アスリートのために特化したものだと、もしかしたら行きづらくなるのかもしれない。

私の立場からお話をすると、子どもから大人までスケートに来たくような、一人でも多くの方がスケートを通じてスポーツの楽しさを知ってもらえるような、400mのリンクが良いのかと思う。

座長

冬の生活のことを考えている。太平洋側と比べて雪の多いところは運動量が減る。また、暮らしている人は思わないかもしれないが、医学的に比較すると、精神的に重い・暗いと思う人が多い。

そういったところで氷や広いスケートリンクがあれば、そこで遊ぶ、集まって交流することで、冬の生活の質を高めて豊かにする、冬も行動する運動する習慣を作ることができる。それから、雪国の文化として氷を活用した遊びや学習を行うことができ、体験としても楽しむことができる。

いろんな人が利用することで交流する場ができていく、そういったところを積極的に作っていくために、市として氷のリンクを活用したスポーツ環境を提供するところが大事であると思う。生涯スポーツとしてはそこで十分できると思う。

今までの競技力や実績の蓄積があるため、今現在活躍する方々を間近に見



られるような場所を近くに設置することで、認知度を高めながら楽しんでもらったり、自分がそこに参加する人が増えていったりしていく好循環の環境づくりのためにも、より広い場がよい。改修するごとに狭くなるものではなく、スケールを大きめに作ることは活用性においてよいと思う。山形市にとって負担面等に難しさがあると思うが、冬の生活全般行動を豊かにする観点でも、こういった施設は必要であると思う。

事務局 それぞれの立場により若干意見の違いはあるものの、冬場の生活の質の向上であるとか、冬場の交流あるいは運動不足の解消というふうに、幅広い方が使える施設であると同時に、その先に競技力の向上、アスリート目線の視線も必要である、その二つを両立するような施設が望ましいのではないかとのご意見でよいか。

構成員 皆様のご意見を伺って、似た部分や付け加える形となるが、自分が一番大きい目的と考えるのは、競技者ではなく一般の、普段スケートに気軽に携わりに来てくれるお客様の方に重点を置いた方が良いと思う。

現に中央高校の選手が国体・インターハイに向けて総合スポーツセンターで練習をしているが、実際にそこを使うのは遠征の無い時期の一日2時間ほどでそこまで多くない。それよりも一般利用者の方が圧倒的に多い。

目を向けなくてはいけないのは、作るのにいくらかかるという点も重要ではあるが、作って終わりではなく、作った後にどうやって収益、年間の利用客を増やすかという点が、今の山形で新規に施設を作るという点において非常に重要であると考えます。

スケート以外の利用価値について、夏場や競技者以外の利用価値を高めていく必要があると思う。そうするとメインの目的はオリンピックの育成等ではなく、大部分が一般利用である。スピードスケートでの利用時間は限られていることもあるため、スピードスケートを短い時間に集中させ、それ以外の部分にどこまで年間の利用客を伸ばせるかである。極端な話ではあるが、北海道のエスコンフィールドのような、テーマパークに来たような気持ちでついでにやっていくというようなところ、そこに行ってみたいと思ってもらえるような施設づくりが重要であると思う。

---

座長 8ページ②の付加すべき機能の検討というところから、素案の無い部分について1つずつご意見を伺いたい。

構成員 付加すべき機能というのは大きく分けると2つあると思う。オンシーズンとオフシーズンあるかと思う。

馬見ヶ崎のプール、ジャバと総合スポーツセンターのプールでは違いがあると思う。どんな印象の違いがあるか伺いたい。

構成員 ジャバはレジャー性を感じる。スポーツセンターは競技用のプールの印象である。

構成員 人の入りはどう感じたか。

構成員 ジャバは多種多様、お子さんから大人まで、家族連れである。スポーツセンタープールにもいるが、比較すると多い。

構成員 ジャバは入場制限があるほどであったこともある。

ジャバは、波の出るプールの横に25mプールがある。おそらくそのうち2コースで歩くだけのコースを設けている。それだけを目的に来る人がいる。その横ではこどもたちが普通に泳いでいる。

このように、バリエーションに富んだプールであるために、人が多く来場し、入場制限や人数制限をしたりしている。誰もが楽しめていろいろな機能があるからこそ、ジャバはたくさんの方が来ている。

同じようにスケートに関しても、いろんな方が来ると思う。オンシーズンに関してもいろいろな方が楽しめるような、そしてまた競技者が練習に専念できるような多様な施設が良い。オフシーズンに関してはそれを生かして少しでもコストダウンできる利用法が必要と思う。

いろいろな人たちがその目的によって楽しめ、利用できるような機能が必要と思う。

座長 夏と冬の使い分け、活用方法や機能ということであるが、特に競技種目等の思いつくことがあるか。

構成員 八戸は、備蓄倉庫、防災用の拠点として震災時等は避難所としての活用を考へて作られている。もしこれから新しく作るのであれば、防災倉庫や避難所の機能を果たせる施設も必要ではないか、あってもよいと思う。

構成員 災害時の避難施設としての機能はあってもよいと思う。

健康増進というところで見ると、氷のリンクの外側にタータンをひき、ランニングやウォーキングができるというものが必要であると思う。夏暑い山形で、涼しい環境で体を動かせるというのは人が集まる魅力になると思う。

もう一つ、ウエイトトレーニングの施設であるとか大きめのスタジオで、歩く走る以外にもエアロビックなどの有酸素運動ができるようなところがあると、人が集まって交流も増えると考えられる。

座長 アーバンスポーツというイメージからお話をすると、スケート場なので氷の無いときはスケートボードやインラインスケートなどスケートのレーンをそのまま使えるものや、内側は人工芝をひくなどわからないが、フットサルや多目的な運動施設として、建造物を伴わないで活用できるような運動種目は、トラックの区外でよければかなり活用できると思う。

この種目を限定し、強化しようという視点であると、また違う議論が必要になる。

スペースがある程度あり、屋外で広いのであれば多目的な活用ができるし、アクセスが良ければ非常にニーズもあると思う。

新しいスポーツはいろんなものがあるので、氷を使った新しいスポーツであるとかスポーツではなくても遊具やアスレチック等を置くことで交流の場を設け、こどもたちに人気のある場所になると思う。

スケートや競技でなくても、スポーツと遊び・ゲームのようなものができるような工夫をすることで、いろんな人が利用できると思う。

構成員 アーバンスポーツと聞いて思いつくものは、スケートボードや自転車を使用するBMXであるが、都市の街の中で行うイメージがある。施設内での使用における安全性、区画の問題などもあるので、道具を使った他の種目というのは考えが及ばない。

これから需要の高まりがあると思うアーバンスポーツに、パルクールがある。いわゆる障害物レースのようなもので、山形でも取り組みたくても施設がなく、自分たちでボックス等を組み立ててやっている競技者を知っている。

これからオリンピック種目として新しく採用される中で、アスレチックのような飛び越える・くぐるといった設備は競技としてやる人は増えてくると思う。ボルダリングと同様に、オリンピック種目となったことで興味を持ち、やってみようと思う人が増えるのではと考えている。

大きな施設にこういった区画を作るとするのは、パルクールを専門に作るうとしても難しいものがあると思う。その種目専門競技者としてだけでなく、他のスポーツをやっている人が取り入れるというチームもあり、専門の競技者と一般の使用者と一緒に取り組めるアスレチックがあれば、スケート選手のトレーニングの一環として取り入れる利用価値も出てくると思う。

スピードスケート以外のスケート機能について、先述のベラルーシのリンクについてご紹介する。

400mリンクは基本的に中地があるイメージが多いが、このリンクは中地がなく、全て一面が氷になっている。すのことマットで氷の上に足場を作り、その中でショートトラックのリンク等を作っている。一面が氷で、使っていないところに足場を置いてスペースを作りながら使用するというリンクであったと思う。

通常の400mリンクは基本的に中地には地下道を使って行くイメージになるが、このリンクは一か所だけ階段があり中地に行くという形だったと思う。スピードスケート以外のスケート利用という観点として、氷の維持に係る費用といった問題はあるが、ありと思う。

座長

冬の生活の質を豊かにする、行動的な活動をする、イベント性等を含めて考えると、スケートの部分以外にも氷を活用した遊びやイベントを開催するようなことができる場所であったり、雪合戦であるとかアイスホッケーの比較的遊戯性があり楽しめ盛り上がりやすいイベントを開催するなど、いくつかの機能に活用できるような冬のスケート場ができるとよいと思う。

いくつかの機能は多様なニーズ、年代、住民と観光等の区分けに応じて対応できるように作られるのが望ましいと思う。

構成員

パティネさんに伺いたい。屋内になった場合、使える期間は伸びるか。

現在は11月から2月であるが、それが少し変わるか。

構成員

八戸や長野では一か月前（10月）から6月ぐらいまで開けている。ただしランニングコストをかけないのであれば、期間を長く延ばすことはできない。

ほとんどの施設は一度夏場に氷を溶かして張り直す作業をするため、期間は長くなるが通年というのはあまりない。

構成員

期間が長くなれば、氷に親しむ期間も長くなる。

構成員

屋内のサブリンク、フィギュア等であれば通年もあるが、たいてい400mは施設を閉じて氷を溶かすことがほとんどである。

構成員

スケート場がオフだからでこそできる、逆にいうとオフのスケート場でなければできないことはあるか。

構成員

前回と重なってしまうが、茅野市では当初ローラスケート場にしてみたり、ランニングコースをやってみたりしたが、収益を上げることができなかった。

平成6年当時に茅野市でゴルフ場をやり始めた当初は何年持つか、という話であったが、その後ゴルフブームもあり、現在ではおそらくスケートの利用者よりもゴルフの利用者が多いという状態である。

ただ、ネットの老朽化による貼り替えやゴルフボールの入れ替え等の経費は掛かっているし、夜10時まで営業するための電気代や人件費も掛かっている。

有効利用という点だけ見れば、ゴルフ場の利用者は3万人ほどいる。費用を考えずどのくらいの利用者がいるかを見て、やってよかったというお話はいただいている。

付け加えると、山梨県にも400mのリンクがあり、夏何もやっておらず整備を考えている。スケートボード場を整備するためにスケートボードをやっている方を呼んで話を聞くと、欲しい施設の機能とスケート場との兼ね合いが出てきてしまい、話し合いを必要とする。

市としても作るのであれば双方の団体が良いというものを作りたいと思っている。作った後で「こうじゃなかった」となるのは困る。

またスケートボード場として開場するにあたり、管理する人員が必要であったり、夜間会場のための照明であったりが生じる。せっかく整備するのであれば長く使ってもらう形で考えたいとの意向がある。

昔から種目選びについてはいろいろ話が出ているが、これだという種目はどうしてもない。経験則としてゴルフ場をお勧めしてしまうと、整備には何千万の費用が必要になってしまう。

座長

9ページに移りたいと思う。ご意見いただきたい。

構成員

適地の検討についてであるが、交通の便が集客において一番に影響すると思う。総合スポーツセンターの方は昔と違い、バスの路線も整備され羽前千歳駅が近いので、シーズン3か月の集客は3万人を超えている。このことから適地には交通の便が多少なりともよく、マイカー社会ではあるものの、こどもたちがバスや電車に乗る、徒歩で来られる距離にあればある程度の集客が見込める。一般目線から見れば、遠く離れるのであれば利便性のいい場所が良いと思う。

構成員

②の屋内スケート施設との連携のあり方について、上山市の坊平高原にナショナルトレーニングセンターに指定されているところがある。中央高校もその施設を使って合宿をしている実績がある。

そういった周辺施設と連携することにより、アスリート目線ではあるが、準高地と呼ばれる標高の高いところでトレーニングをしながら、山形市にスケートリンクがあれば降りてきて氷上の練習ができ、二つの施設を使いながら練習ができるということも重要であると思う。

画面の共有を行いたい（小野氏の準備したスケートリンクの画像）こちらはベラルーシのミンスクのリンクである。500mのスタート位置の後方から撮ったものである。リンク中地に見えるものは、ホッケーリンクやショー

トラックに使用するリンクが張られている。その左上に長方形の黒いものがあるが、これはモニターで、タイム表示を行うものである。

このモニターの後方にトレーニングができる、ウエイトトレーニングができる器具が置いてあるスペースがある。写真右手には観覧席が続いている。

もう一つご紹介したいが、動画の共有ができない。オランダのスケートリンク、ポーランドのスケートリンクである。実際に足を運んで撮影したが、先ほどの写真のように内側にリンクがあって、バスケットボールのコートがあるなど、多目的に利用できるようになっていた。

県でいうと、他の競技団体と連携しながら進めていくことも可能性としては必要であると考える。

事務局

先程アドバイザーの齋藤様から適地ということで、郊外だとしても交通の便のいいところとの話があったが、小野先生にお伺いしたい。今現在高校生が鉄砲町から落合に移動する際には、どのように移動しているのか。自転車やバスか。

構成員

シーズンに入ってからスケート場を利用する際には、ほとんどが自転車での移動になる。どうしても降雪等がある場合にはマイクロバスで移動するなどするが、この2つが主な交通手段である。

構成員

適地に関して、今までの内容から逸れ、話が大きく飛躍してしまう部分があるが話ししたい。

スピードスケートは標高が大きく影響するスポーツである。基本的に日本記録や世界記録は標高1,000mを超えたスケートリンクでしかほとんど出ない状況である。というのも、気圧が低くなることで空気抵抗が少なくなるからである。現在世界大会が行われているカナダのカルガリーとアメリカのソルトレイクシティが、おそらく世界記録と日本記録で占められているリンクであると思う。

坊平高原や蔵王温泉といった1,000mあたりに立地したリンクは、世界に3つしかない。先ほど述べたアメリカとカナダ、それから中国のウルムチにある数年前にできたリンクがあるが、これはあまりに山奥にあるために国際大会が開催できる環境ではない。

そうなったときに、長野・帯広・八戸との大きな差別化を図る一つの価値として、標高の高いところへの屋内スケート場というのは、合宿をしたり速いタイムを狙ったりする点においてはかなりの高い価値であり、もし蔵王にリンクができるとなれば、世界でも4番か5番目に高地のスケートリンクとなる。他の屋内リンクとの差別化は間違いなく図ることができるし、一般の利用者に目を向けたとしても、競技者として合宿地としての利用価値が高まる。

今現在全日本のナショナルチームでも高地トレーニングをシーズン中に交えながら行っているが、高地のリンクは無いので、標高900mの軽井沢のリンクで合宿をするか、1,300mの菅平高原に寝泊まりをしながら、長野市へ1時間弱で通ってトレーニングをするという合宿を組むチームが日本でも増えている。

よって、標高の高いところで氷上のトレーニングもできるとなると、競技

者として、合宿者としての利用価値はかなり高まるのではないかと思います。

アクセスの面に関しては今までの話と正反対になるが、一つの案としてとらえてもらえればと思う。

構成員

今の話を伺うと、是非ワールドカップを蔵王で、とも感じる。先ほどから話をしている目的が大事であると思う。

ワールドカップなどを招致するためであれば、標高の高い蔵王に作るというのもある。世界誇るジャンプ台があり、さらにスケート場があれば素晴らしいと思うが、大変でもある。

現実的には市民の方々が楽しく、数多く利用できるというところで適地を検討しなければならないと思う。完全にアスリート、競技者目線であればその部分もあると思うが、まだそこまで根付いていないと感じるため、適地という部分については別の角度から検討していただきたい。

②の屋内スケートというのはサブロクの話と思うが、皆さんからもお話しがあった通り、400mの中にサブロクがある施設が多くあるため、県との歩み寄りで実現していただければと思う。

蔵王中腹に建つようなことはないと思うが、県とすり合わせを行って、屋内、屋内というよりもサブロクリンクと400mのリンクを一緒に考えていただきたい。

座長

適地ということでは、今まで利用している多くの人たちのニーズやアクセス、交通手段等を考えることが1つ。他方で、新しいところの開拓や環境面を生かした差別化を図るという意見があった。

屋内スケート施設との関係等については、県とのかかわり方もあるため、他の競技施設とのかかわり方とスケート施設同士のかかわり方も連携として考える必要がある。

③の費用対効果についてはまとめがあるが、ご意見があればお願いしたい。それでは、私の方からお話しさせていただきたい。

公共スポーツ施設というのは非常にコストがかかっており、維持管理費に関しては前回も多く話題になったと思う。税金も多く使うことになるため、多くの市民に支持され活用できるような施設を作っていくために、スケート場の施設ではあるものの、他の機能や多目的な活用が検討できるのであれば、多くの人が使用し、収入の面でも多角化できるような事業性が今の施設は求められており、欠かせないと思う。

コストについてはわからないことも多いため、ご意見があればお願いしたい。

構成員

整備コストのところでは、県、市民が使用していくなかで、アスリート向けとしては県外から高校生、大学生、社会人が合宿できる施設で、周辺施設に宿泊ができ、十分な食事をとれる場所や、温泉等で疲労を回復できる場所を売り込めるポイントと感じている。

運営コストでいうと、スピードスケートの競技会を開くとなると、氷のメンテナンスが重要になる。その日の天候や室内の気温、氷温、湿度によって記録が出たり滑らない氷になったりするデリケートなものであるため、費用が掛かる部分になると思う。それを補うためのイベントの招致等を考える必

要もあり、先ほどもあったが、整備後の運営活用のビジョンや目的を含んでいく必要があると思う。

座長 今もご意見があったが、山形市の施設ではあるが、他の市町村や県との関係や、県外からのスケート関係者や観光目的でも訪れてもらえるような施設というものが、山形市であれば必要があると思う。

構成員 市に確認をしたい。ぜひ山形でスケートのワールドカップをやりたいということはあるか。

事務局 考えたことがあるかないかという、私もスポーツの事務を移管して3年になるが、庁内でワールドカップについて議論した経過はない。ただ、過去に冬季オリンピックを承知したことがあり、その中では世界規模の大会をこの山形で、ということであった。その当時の議論の記録詳細は残っていないため何もコメントを出すことはできないが、当時の関係する方では、世界規模の大会をするにはどうすべきかということは当然議論の上でオリンピック招致には手を挙げたと推察している。

構成員 ジャンプワールドカップはなぜ蔵王で決定したのか。やろうとなったきっかけは、施設が先なのか招致の希望が先なのか。

事務局 経過については存じ上げず申し訳ない。

蔵王でスキーのワールドカップを始める以前、ジャンプ台が完成したのが昭和53年のインタースキーの時である。そこから大会を毎年開催しており、ワールドカップを招致する前にランクの違う国際大会、コンチネンタルカップに取り組んでいた。その流れの中で、ワールドカップに移行していったという経緯がある。

事務局 補足させていただきたい。

大会の規模が大きくなればなるほど、ワールドカップクラスの大会の誘致には施設面があることは当然であるが、人的ネットワークのような大会運営をする現地のスタッフであるとか、国際大会であれば国内からも相当の応援をいただいて実施する現状である。こうしたハードとソフトの両面が揃って初めて実現できるものと思っている。

山形のジャンプワールドカップは、少しずつそういった実績を積み重ね、人的ネットワーク・協力体制を構築しながらやった成果として今の形での大会が実現できていると思う。

構成員 先生にお聞きしたい。山形でやりたい（招致）と考えたことはあるか。

構成員 全日本クラスの大会を呼びたいという思いはある。もちろん世界大会が来れば、日本国内のスケート関係者も集まるし、スケートを見たことがない人も触れるチャンスであると思う。正直なところ、現状で（ワールドカップ等を）呼んで開催できる体制があるかどうかといえば、難しいところである。

ただ、新しい屋内施設ができれば、スケート関係者の注目の的にはなる。それをきっかけにスケートの普及強化ももちろんであるが、大会を開催してくれないか、という話には間違いなくなっていくと思う。そういったところを活用して、山形をアピールできるチャンスの一つになると感じている。

構成員 小野先生にはそういった強い思いを出していただけると、また形が変わるのではないかと思います。よろしく願いしたい。

- 事務局 (4)②の屋内スケート施設との連携のあり方について。  
県の方で来年度発表となる予定で詳細のわからない中での話となってしまうが、市と県の施設連携について、もう少しご意見をいただきたい。
- 構成員 屋内スケート施設について、所管ではない。今年度、他県の事例を踏まえ、複数のパターンで事業費・収支のシミュレーションを行っていると聞いている。調査結果の取りまとめは年度末を予定しているとのことである。その結果を踏まえ、来年度以降、整備の是非も含めて整備する場合の立地場所等を検討するとのことである。  
現時点で屋内スケート施設を県内のどこに整備するかまでは決まっていないと聞いている。
- 事務局 県の回答を踏まえ、先ほど逸見会長から中地をサブロクにし、周りを400mのリンクとして県と市で一緒に進めたらどうかのご意見をいただいたと思うが、それはアスリート目線、高校の部活目線、一般利用のお子さんの目線などいろんな目線で考えた場合で一緒によい、というご意見なのか、別の施設の方がよい、というご意見なのか、もう一度ご意見いただければと思う。
- 構成員 高校の部活動指導者として考えると、サブロクのリンクが整備されると、今後400mリンクが整備される可能性は低いのではないかと思う。スケートという括りになると、様々種目はあるが、ホッケーを整備したからスピードは不要という意見がないわけではないと思う。  
整備をするのであれば、400mリンク、中地にサブロクリンク、それに付随した複合型の施設が望ましいと考える。
- 構成員 県のスケートあり方検討会に、山形市からも少し意見を述べさせていただく機会を作ってはどうか。現場を入れるなど。
- 構成員 私からはなんとも申し上げることができない。
- 構成員 是非持ち帰っていただきたい。
- 構成員 前に発言もしたが、一丸となってやって頂きたい。  
何十億かかるかわからず、単独でやることもひとつではあると思うが、県とあわせてお金がたくさんあれば、それなりの施設ができるのではないかと個人的に思う。t o t oや国の支援を一本化してやって頂ければと思う。  
サブロクのリンクにしても中地に作る方法もあるし、冷凍機を一緒にして外側に作る方法もいろいろ考えられると思う。問題は場所の設定と思うが、そうしていただくと市民としては良いと思う。  
蔵王に400mのリンクを作り差別化するという案もあったが、(400とサブロクを)一緒にして作ってもらいたいと思う。  
機能として共通する部分もあるため、別々に作るよりもお金を一本化したほうが良いと思う。
- 構成員 利用者から考えれば、中にリンクがあったほうが小さいお子さんや親子連れが楽しめると思うので、機能としてよいと思う。  
大抵の400mのリンクの中には、サブロクといかないまでも小さなリンクがある。茅野市のリンクでも中の小さいリンクへ地下道で向かえるようになっている。400mのリンクだけではなく、中のリンクも活用する形で整備するのか改修するのかを考えてもよいと思う。



なお茅野市のリンクは（400mと中のリンクの結氷に）同じ冷凍機を使うようになっている。そのようにすることも可能である。

座長

時間になりましたので、何かご意見がございましたらお寄せいただければと思う。

次回の懇談会の公開については、本日の会議に諮る必要がある。

公開することにご意見はないか。

（異議なし）

全員異議なしと認め、次回の会議も公開いたします。

座長

特にご意見がなければ、以上をもって座長の任を降ろさせていただきたい。

ご協力ありがとうございました。

### 3 その他 事務局

次回開催案内

### 4 閉 会